

【議事】定 8

(1) H- A ロケット 12 号機の打上げ結果について

JAXA の河内山理事が資料 8-1(H- A # 12 の打ち上げ)を説明した後、特に質疑応答は無かった。

松尾:準備段階から順調で、何も無いのが心配だなどと 捉えていたのに、大変立派な成績で、外にありませんか。

(誰も発言しなかった。「ご苦労様。」とでも言ったら良いのに。)

(2) 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会の開催結果について

文科省の坂口企画間が資料 8-2(国連・小委員会)を説明し、下記のように熱心な質疑応答があった。(以前の定例会議でも、中国の衛星破壊に関し、従来から強く注視していた。)

池上:津波の問題に関連し、災害に対する考え方について、国連として一体化するようなことを考えているのか。

文科省坂口:今回は SPIDER が議論されたが、この活動で新たな災害システムを作るというより、災害チャーターの最上位の活動と位置付け、横串に GEOS の活動を横目に見ながら、各国・各地域で行なわれているものを束ねて、情報を上手く合わせる活動を行いたいというものである。

池上:東南アジアの各国は、何を得られるのか。

文科省坂口:先ず、情報が、国連宇宙部の中で一括して集まるので、収集が容易になる。

池上:そうすると、リアルタイムに何かをやる話にはなっていないのか。

文科省 坂口:其処までではない。既存の活動でやる部分である。

青江:そのプログラムと、センチネル・アジアの活動との関係はどうなっているのか。

文科省坂口:教育支援のような活動を行うようであるが、それ以外の具体的活動は行ないませんので、まさに合わせるような雰囲気¹である。

青江:デブリについて、科学小委で採択されたが、後は COPUOS に報告されるだけで、ガイドラインが其処で成立したと考えて良いのか。また、中国の反応であるが、「宇宙軍拡を目指す立場にはない。」「他国に脅威を与えるものではない。」と云った、軍拡的側面からの反論があったが、デブリを拡散せしめたことそのものに対する言い訳はあったのか²。

文科省坂口:その辺りは、各国(が中国に対し)どう考えているのだということを一一般発言で行なったが、中国から確たる回答はなかった。

青江:今後、ガイドラインが成立したので、これからは皆が守っていく状態に入る。守らせる仕組みを作ろうと考えているのか。

¹ 国連は、「弱者が強弁する」機会の提供と、他者の成果に乗り「国連職員の成果」を宣伝する場にする傾向を排除しきれない。国連自身でループの閉じたプログラムを実施することは、財政的にも人材・労力的にも、殆ど出来ないことである。

² 衛星攻撃兵器のデモを行なうことに心が行ってしまった中国は、「他国の衛星を撃ち落すのでは無いから、非難されない。」と思っていたのか、デブリの大量発生を非難されることが予測できていなかったようである。「中国に衛星を撃ち落す技術力がある。」ことを示せたので、実験を繰り返す必要はないし、2 回目で失敗するようリスクは犯さないと考えられる。

文科省坂口:この COPUOS の小委員会は、各国がこのガイドラインを踏まえた活動の報告をし合う。これだけの国がガイドラインを踏まえた活動をやっているから、もっときちっとやって行こうという機運を育てていくことが先ず考えられる。

青江:この科学小委では一応ピリオドが打たれることになるのか。ガイドラインを採択したので、引き続きフォローの活動を行うのか。

文科省坂口:より良いガイドラインにするための改訂も視野に入っている。

青江:そうでなく、遵守していることを見て行く、フォローする活動は行なわないのか。

文科省坂口:各国の活動を求めるので、フォローすることになる。

青江:結果的にそのような効果があると言うことか。毎年報告を求められれば、ある程度のバイディングの力は有るかもしれないと思う。また、法小委で条約化(ガイドラインを超えた物)する動きはないのか。

文科省 坂口:法小委が3月末に行なわれる予定になっており、そのときの議題案として話題に上りつつある。具体的な議論になるかどうかはわからないが、関係者の間での問題意識は出てきている。

松尾:問題意識は出ているが、議題に載せるほど確定的ではない。法小委の状態は、「道徳的非難の基盤が出来た」と云うところか。

青江:(何もしないのとは)相当違うと思う。ガイドラインに法的拘束力が無いにしても、報告を行なうことがハードルにはなる。

松尾:今迄も「こうやってはいけない」位のハードルは有ったと思う。それで、新たに追加してどうなるのかわからない。

森尾:日本を含めて16カ国から、スペースデブリの低減活動の具体的なものは、どんなことが出たのか。

文科省坂口:後の添付資料で、ガイドラインの日本語訳をつけているが、このような内容をどのロケットで行ったのかといった報告が出ていた。

松尾:細かい話しをする気はないが、ガイドラインを見ていて、6項のLEOのものを無害化せよという話は、実施が大変だと思うが。実際どうすればいいのか。

JAXA:IADCのガイドライン6は高度2000キロ以下を有用な軌道領域とし、寿命を終了するものはそれを外した状態にすること、低いものであれば落とすということで、よほど高いものであれば上げる可能性が無いではない。基本的には25年とか50年の範囲で落下させる。但し、国連のガイドラインでは定量的なことは一切述べていない。

松尾:衛星は、運用終了時に最終的にマヌーバするための余力を持つことをしなければならぬと言うことか。

JAXA:高度800キロ位で、ドライマスの3%と言うので、推奨にして100キロ以上のものが必要になる。JAXAの衛星では、MDSやOICETSで実行したことがある。JAXAは余り利用していないが、800キロを超えるものは5%以上の推奨の確保が必要で、容易ではなく、テザーなどの減速機構が必要になる。

青江:雑談に近いことであるが、宇宙技術で劣る中国が、米国を宇宙軍縮に引きずり込むために、やったという見方が有る。今回の会合では、米国は比較的強いトーンで反応している。新聞の論説が正しければ、米国は中国の仕掛けに乗ったことになる。これから先、ジュネーブの軍縮会議はどんな風に動くのであろうか。